



# 東京経済大学ニュース

Vol. 02

東京経済大学ホームページ : <http://www.tku.ac.jp/index.html>

## CONTENTS

### 特集1 「グローバルラウンジ コトパティオ」オープン

- 英語を母国語とするスタッフ2名が常駐・学生は気軽に会話OK

### 特集2 「ロンキャリア女子」ウェブサイトオープン

- 腰をすえてロングキャリアを目指す女子を応援
- さまざまな視点で「ロンキャリア女子」コンテンツを拡充

### 東経大インフォメーション

- ① 経営学部 本藤貴康ゼミナール  
オムロンの電動歯ブラシの販売戦略に取り組む
- ② 進一層トライアル2015「キャリア塾」  
若手卒業生を講師に仕事の醍醐味を知る
- ③ 2015年度 第34回市民大学講座  
「現代社会を考える2015」開催
- ④ 大倉喜八郎記念東京経済大学学術芸術振興会講演会  
「日本列島の地下で何が起きているのか？  
ー日本人であるということー」開催
- ⑤ その他  
女子学生アパート契約への10万円補助制度開始／業界別卒業生団体が学生の就職を支援／大盛況だった夏のオープンキャンパス2015／学部初の快挙！「生命保険論集」「損害保険研究」に論文掲載／田島教授と学生がマレーシア マハティール元首相と懇談



## 特集1 「グローバルラウンジ コトパティオ」オープン

### 英語を母国語とするスタッフ2名が常駐・学生は気軽に会話OK

2015年8月にプレオープンした、学内で留学体験ができる「グローバルラウンジ コトパティオ」が10月1日、本学内に本格的にオープンしました。「外国語を、自由に、気軽に話すスペースが作れないだろうか」という多くの学生の声を実現した施設です。英語を母国語とするスタッフ2名が常駐。在学生は1人でもグループでも、予約を必要とせず利用することができます。気軽に立ち寄れる環境を構築することで、ひとりでも多くの学生に活用してもらおうと考えています。



グローバルラウンジプロジェクトチーム座長  
副学長 福士正博

#### <背景＝誕生までのプロセス>

本学では、「実践的な知力を身につけてグローバル社会で活躍する人材の育成をはかる」ことを重視しています。これまでも協定校留学、短期語学研修、海外ゼミ研修、グローバルキャリアプログラムなど、在学中に海外で学びたい、海外の事情を知りたいと考えている学生を積極的に支援し送り出してきましたが、海外でうまくコミュニケーションがとれず、悔しい思いをし、帰ってきたと反省する学生も見受けられました。

この流れを受け、昨年7月、堺憲一学長は「国際化ビジョン」を発表。気軽に学内留学できるコミュニケーションスペースの必要性が高まっていると考え、教職員・学生を交えたプロジェクトチームが立ち上がりこのスペースを開設することとなりました。

#### <誕生したコトパティオ ネーミング>

設置するこのスペースの存在をより多くの学生に知ってもらうため、プロジェクトチームは教職員、学生を対象として愛称を募集。選ばれたのが「コトパティオ」です。

このネーミングを提案した現代法学部の澁谷知美准教授は、「言葉（コトバ）を磨きたい仲間たちが、いつでも集まれる中庭（パティオ）のような場所になってほしい」という願いを込めて作った名称であると話しています。



### <ネイティブスピーカー2名が常駐>

このスペースの第一の目的は、学内でのバーチャル留学体験、異文化体験の実現です。外国語をより深く学びたい、近い将来留学したい、ネイティブスピーカーと気軽に話したいと考えている学生のニーズに応えるため、スタートの段階では英語を母国語とするスタッフ2名が常駐。文字通り自由に会話することができますよう工夫しています。



今後は、中国語、韓国語など、日本語以外の言語を自由に話すことができ、少しずつ言葉に磨きがかかるスペースとなることを目指しています。

入口に「ここから先は日本語を使えません」という表示がされています。それを見て、学生が気後れすることも考えられますが、それを乗り越えるのは学生一人ひとりの意識です。躊躇せず、一歩踏み出してくれることを期待しています。

### <ハードルの低い施設を目指す・1対1もフリートークも可>

学生はスタッフを相手に1対1の対面による会話のほか、グループでの会話に参加することも可能。また、外国語に関する書籍も活用することができます。テキストが必要な場合は本学で用意し、フリートークを望む学生がいれば、随時対応します。



一人で来ることに抵抗感を持つ学生がいても、友人を誘って気軽に利用できる、ハードルの低い施設とすることを目標としています。そのため、事前予約を必要としない自由な利用方法を基本とする一方で、学生のニーズに応じて、あらかじめ利用日、利用時間を指定し、スタッフが待機する事前予約制度を組み入れることも視野に入れていきます。

### <今後に向けて>

多くの学生がこのスペースに関心を持ってくれるようにしたいと考え、日本人学生のみならず、外国人留学生や教職員とも交流できるスペースとして発展させる予定です。

プロジェクトチームは立ち上げの過程で他大学にある同様の施設を視察、運営を教職員だけで行わず、学生スタッフも関わっていることを知りました。本学で運営が軌道に乗ってから、運営に関わる学生スタッフを募集する予定です。

学生は、利用者としてこのスペースを活用するだけにとどまらず、自らイベントの企画・運営に関わることで、言葉はもちろん実践的なコミュニケーション力にも磨きがかかります。この「グローバルラウンジ コトパティオ」が、学生の様々な可能性を広げていく場となり、ここを起点として多くの学生が外国に旅立ち、グローバルに活躍する人材に育っていくことが期待されています。



## 特集2 「ロンキャリア女子」ウェブサイトオープン

本学の学部教育や学生支援についての活動を広く知ってもらうため、ターゲットを女子受験生に絞り込んだ特設ウェブサイトを、2015年5月29日にオープンしました。

本学では、就職後も長く役立つ実践的なカリキュラムを多数提供しています。その教育内容は、結婚、出産などでキャリア形成をあきらめることなく、ワークライフバランスを大切にしながら、長いキャリアを積みたいと考える女性＝「ロンキャリア女子」にぴったり。同サイトでは、ショッピングや洋服、生活と同じように、大学にもフィット感を重要視する女子受験生が興味を持ち、共感するさまざまなコンテンツを用意しています。



### 腰をすえてロングキャリアを目指す女子を応援

「ロンキャリア女子」とは、株式会社リクルートホールディングスが2014年12月に発表した造語で、住まいや飲食、それに出産・育児、進学など8領域における2015年のトレンド予測やトレンドを表すキーワードとして発表したもののひとつです。

リクルート社の調査（出典：リクルート進学総研 2015年トレンド予測 進学領域）によると「仕事か家庭か（＝OR キャリア）」の選択ではなく、「仕事も家庭も（＝AND キャリア）」充実させたいという女子高校生が増加傾向にあり、結婚や出産を経験しても長く働きたい（＝ロングキャリア）を志向する女子高校生「ロンキャリア女子」が、専業主婦志向の2倍となっています。また、結婚・出産後も6割は働きたいと考えているという結果が出ており、この数値は2012年と比較して10ポイントもアップしています。



東京経済大学の女子学生が将来の希望について語るオリジナルWEBムービーも公開されています。



## さまざまな視点で「ロンキャリア女子」コンテンツを拡充

同サイトはオープンキャンパスに向け、段階的にコンテンツを増やしていきました。第1段階では「女子カフェ」を展開するオープンキャンパスの日程案内や「ロンキャリア女子」を応援するキャッチコピーを掲載。さらに内容を充実させた現在では、適した仕事などを4つのタイプで判定する『ロンキャリア女子』未来診断』や、東京経済大学的女子学生が本音を語る「タイプ別『ロンキャリア女子』ギャラリー」、卒業し社会で活躍している女性のインタビューなどバラエティ豊かなコンテンツを公開しています。



自分のタイプがわか 仕事に即ちライズの養育生をコツや今のコメントを見つけ、後の目標を先輩の体験談から学びます。



「女子ラボ」では経済学部、経営学部、コミュニケーション学部、現代法学部と4つの学部に関連した身近なテーマを、女子学生がその道のプロの教授陣にインタビューしています。

## 東経大インフォメーション

### ① 経営学部 本藤貴康ゼミナール

#### オムロンの電動歯ブラシの販売戦略に取り組み、店頭プロモーションに採用

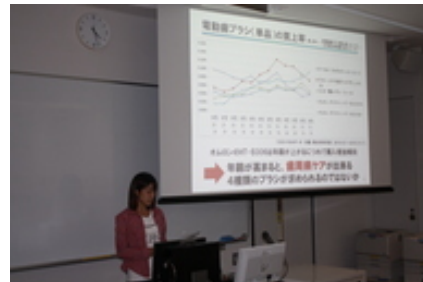
経営学部 本藤貴康教授のゼミナールは「企業とコラボレーション ～プロモーションとブランディングの実務型演習～」をテーマに活動を行っています。今年度は(株)オムロンヘルスケアとのプロジェクトで、電動歯ブラシ「メディクリーン」販売促進のためのマーケット分析、競合他社製品の分析、店頭プロモーションなどの企画立案に取り組み、店頭でのプロモーションが行われることになりました。

ゼミ生は4チームに分かれ、4月からPOSデータの分析、さまざまなアンケートの読解などを通して現状を分析し、ターゲットを定め、店頭での販売プランの戦略を立案。週に2回グループワークを行い、情報収集とデータ分析をしながらディスカッションを繰り返しました。各チームにはオムロンの若手社員1名がサポートに加わって2週間おきにメールで進捗状況を報告し、問題点の確認などを実施。6月29日に本学で検討状況確認のための中間プレゼンを行い議論を深めました。

そして、最終プレゼンテーションを7月16日に品川のオムロン東京事業所で実施。各チーム持ち時間15分で、それぞれパワーポイントを使用し、分析結果と戦略を説明。その後、オムロンの社員と本藤教授が加わり質疑応答が行われました。

本藤教授は企業とのコラボレーションに取り組むことの狙いについて「学生にとってマーケティングの分野で理論を理解し記憶することは、比較的乗り越えやすいハードルです。しかし現実のビジネスシーンで、それらがすぐに役立つわけではありません。実際の商品販売促進を考えていくことで営業数値という具体的な目標を与えられ、より正確にマーケティングの考え方を理解できるのです」とコメントしています。

オムロン営業戦略部の浅井義人さんは、このプロジェクトの意義について「学生が消費者に近い意見で販売戦略を考え、その意見を聞くことで、現実の販売促進につながる可能性がある。オムロンの若手社員が学生の指導をすることで、社員自身が自分の仕事を振り返ることができる」と説明しています。学生立案の店頭プロモーション案は採用され、今後ドラッグストアにて実際に活動が行われる予定となり最終調整が進んでいます。





## ② 進一層トライアル 2015 「キャリア塾」 若手卒業生を講師に仕事の醍醐味を知る

教育改革に資する取り組みに本学が支援を行う「進一層（しんいつそう）トライアル」。2015 年度採択企画のひとつである「キャリア塾」の試み（申請者：南原真経済学部教授）がいよいよスタートしました。これは、本学全学部の2～3年生の中でキャリアに興味を持つ学生を対象に、企業などで活躍する20～30代の卒業生を講師に招きゼミ方式で仕事の魅力を学ぶものです。

2015年7月22日、株式会社ロッテ マーケティング統括部の本原正明さん（2007年経営学部卒）を講師に迎え第1回の塾が開催され25名の学生が参加。「スーパーやコンビニであなたが最近気になった商品は何か。それは何故か」、「どうすればその商品をあなた以外のお客さんが買いたいと思うか」という事前に提示された課題についてひとりずつ発表を行い、これに対して他の参加者や講師がコメントをしていきます。

さまざまな商品が提示され、商品開発や販売戦略について、「サイズを小さくしてセット売り」、「有名商品でも知らない人がいるのでそこをターゲットに」、「売り場のポップ広告はスイーツ男子など購買意欲をそそるものに」、「その商品を買わない人の意見こそ重視すべき」、「数量限定・産地直送・健康志向などの付加価値重視」など多くの意見が出され、商品の価格設定や展示方法、展示位置についても活発な議論が展開されました。

本原さんは「自分の素朴なアイデアから生まれるオンリーワンのアイデアを大切にし、就職活動にも活かしてほしい」と学生に語りかけました。



本原さんは営業や企画を経て、現在はビックリマンチョコを含めた子供菓子を担当しています。「ビックリマンの購買層を調べると、1980年当時の子供時代に買っていた人が大人になっても買い続けている比率が高かったため、新しい若い購買層を発掘しようと、モモクロやモンハン・パズドラとのコラボを考えた」と自らの経験を話し、それを聞いた塾生は、何気ない日々の行動を仕事に結び付けることで多くの気づきを得たようです。

この「キャリア塾」は来年1月までに10回程度開催し、工場見学なども行う予定です。

### 進一層（しんいつそう）とは

東京経済大学の前身、大倉商業学校の創立者である大倉喜八郎は「一步前に出て道を切りひらくチャレンジ精神」を「進一層」と呼び、建学の理念としました。



### ③ 2015 年度 第 34 回市民大学講座「現代社会を考える 2015」開催

東京経済大学では、30 年以上にわたって国分寺市と市民大学講座を共催し、我々の、地域の、日本の、そして世界の今とこれからを考え続けてきました。

本年度の講座も 9 月 26 日から開始され、「現代社会を考える 2015」をテーマに 7 回にわたって開催します。受講者にとって、より成熟し熟慮に満ち、かつ新たな挑戦や未知の世界にも柔軟に力強く寛容に対応し得る社会を思い描き、目指すための契機となることを目指します。

本年度の概要ならびに参加申し込み方法は以下の通りです。

- 参加費 3000 円／人（全講座通し）。※出席初回受付で支払い。
- 申込方法 FAX (042-328-7768) または、東経大ウェブサイトから申し込み。  
※住所、氏名、電話、FAX 番号、メールアドレスを明記。  
※定員に達した場合は受付終了することがあります。
- 日時 下記日程表参照 ※第 1 回は 13:00 から開講式。  
第 7 回は講義終了後、閉講式（16:00 終了予定）

第 1 回	9 月 26 日（土）	13:30~15:30	国分寺キャンパス B301 教室（終了）
	講師：経営学部専任講師 板橋雄大		講義内容：会計情報はなにを教えてくださいのか
第 2 回	10 月 10 日（土）	13:30~15:30	国分寺キャンパス B301 教室
	講師：経済学部専任講師 リュドミーラ・サフチェンコ		講義内容：経済危機は世界に何をもたらしたか？
第 3 回	10 月 17 日（土）	13:30~15:30	国分寺キャンパス B301 教室
	講師：経済学部教授 長岡貞男		講義内容：イノベーションの科学的源泉：日本が生んだ革新的医療の事例研究から
第 4 回	11 月 7 日（土）	13:30~15:30	国分寺キャンパス B301 教室
	講師：経営学部教授 小木紀親		講義内容：ソーシャル・ビジネスの展開と課題
第 5 回	11 月 14 日（土）	13:30~15:30	国分寺キャンパス B301 教室
	講師：現代法学部教授 加藤一彦		講義内容：憲法「改正」問題を考える - 日本国憲法の古稀を前にして -
第 6 回	11 月 21 日（土）	13:30~15:30	国分寺キャンパス A405 教室
	講師：コミュニケーション学部教授 柴内康文		講義内容：人間関係とメディアから考える
第 7 回	11 月 28 日（土）	13:30~15:30	国分寺キャンパス B301 教室
	講師：経済学部准教授 大久保奈弥		講義内容：サンゴ礁を始めとした海洋生態系保全の重要性について





## ④ 大倉喜八郎記念東京経済大学学術芸術振興会講演会

「日本列島の地下で何が起きているのか？－日本人であるということ－」開催

大倉喜八郎記念東京経済大学学術芸術振興会は、本学の前身大倉商業学校の創立者大倉喜八郎の文化的貢献の志を継承して、学術芸術の振興と社会への文化的貢献を目的に活動しています。

10月24日(土)、本学国分寺キャンパスにて、神戸大学大学院の巽 好幸(たつみよしゆき)教授による講演会「日本列島の地下で何が起きているのか？－日本人であるということ－」を開催します。

概要ならびに参加申し込み方法は以下の通りです。

### 講演概要(講師より)

日本は世界一の地震大国、火山大国です。なぜ日本列島では地震や火山噴火が頻発するのでしょうか。列島は今「活動期」に突入したのでしょうか。これらの問題を、科学的に考えていきたいと思えます。さらに、ひとたび起これば日本喪失を招く「巨大カルデラ噴火」についてもお話ししたいと思えます。

列島は私たちに大きな試練と同時に、数々の恩恵も与えています。日本人は「変動帯の民」として、地震や火山と共に暮らしてきたのです。

### 講師

神戸大学大学院理学研究科教授 巽 好幸(たつみよしゆき)

1954年大阪府生まれ。

京都大学理学部卒業。東京大学大学院理学系研究科博士後期課程修了。

マンチェスター大学研究員、京都大学大学院理学研究科教授、東京大学海洋研究所教授、(独)海洋研究開発機構プログラムディレクター等を経て、2012年より現職。

2003年度日本地質学会賞、2011年度日本火山学会賞、2012年米国地球物理学連合ボーエン賞受賞。

- 会場 国分寺キャンパス 5号館 E002 教室
- 参加費 無料
- 日時 10月24日(土) 15:00開演(14:30開場)
- 申込方法 FAX(042-328-7768)または下記ウェブサイトからお申し込みください。  
<http://www.tku.ac.jp/tku/founder/okuragakugei/yokoku/lecture.html>
- 締め切り 10月20日(火) ※定員に達し次第、締め切らせていただきます。
- 主催 東京経済大学・大倉喜八郎記念東京経済大学学術芸術振興会



## ⑤ その他

### 女子学生アパート契約への 10 万円補助制度開始

2016 年度以降に入学する女子学生を対象に、入学時のアパート契約補助金として 10 万円を支給する制度が始まります。

本学に入学手続きをとり、入学前に東京経済大学生生活協同組合（生協）において、指定物件の中から賃貸契約を締結した女子学生に限り、入学後に本学生協を通じてひとりあたり 10 万円を支給します（入学時一度限り）。

留学生も含めた学部・大学院の正規生の女子学生のみを対象として、国内外の出身地域は問いません。本学への入学を辞退した場合や入学後に賃貸契約を行った場合、また本学生協指定物件以外の賃貸契約は補助対象外となります。

なお本学には、男子学生と男女外国人留学生が入居可能な国際交流会館があります。

### 業界別卒業生団体が学生の就職を支援

東京経済大学には葵マスコミ会、葵金融会、葵流通会、大倉公認会計士会、税理士葵会といった各業界別に卒業生が組織する団体があり、10 月から 12 月にかけて各業界別卒業生団体が学生の就職支援を目的とし講演会や懇談会を実施します。

所属人数の多い葵金融会や葵流通会の懇談会には、卒業生と在学生合わせて毎年 200 名近くが参加する盛況ぶり。実際に各業界で活躍する卒業生と懇談することにより、学生の就業意欲の向上や自分の適性を知る、貴重な機会となっています。



## 大盛況だった夏のオープンキャンパス 2015

7月26日(日)、および8月22日(土)、23日(日)の3日間、オープンキャンパスを開催し、昨年を大きく上回る述べ4,516人の受験生や保護者の方々にご来場いただきました。

手製の旗を持った学生スタッフに誘導されて学内のイチオシスポットを巡る「キャンパスツアー」や、女子学生が運営する女性限定おしゃべり・相談コーナー「女子カフェ」、学食体験、さらには各種ガイダンスや説明会なども開催され、来場者はそれぞれの興味に応じたプログラムへ足を運びました。



オープンキャンパス「女子カフェ」の様子。



体験授業(写真上)やキャンパスツアー(写真左)も好評でした。



日程	全体参加者数	女子カフェ参加者数
7月26日(日)	1857名	199名
8月22日(土)	1440名	166名
8月23日(日)	1219名	158名



## 学部生初の快挙！『生命保険論集』『損害保険研究』に論文掲載

保険論やリスクマネジメントを学ぶ経営学部の柳瀬典由ゼミ生の執筆した論文が、研究者や専門家が論文等を寄せる『生命保険論集（第191号、2015年6月発刊）』、『損害保険研究（第77巻第2号、2015年8月発行）』に優秀論文として掲載されました。両誌ともに伝統的な学術誌であり、学部生だけの論文掲載は初めてのことです。

『生命保険論集』の編集委員会は「これまで指導教官との共著を除き、学部生の論文を掲載していませんでしたが、当該論文はRIS(Risk and Insurance Seminar)参加教員による複数の審査段階を踏むなど厳正な審査過程を経ていること、および、保険実務家も参加する研究発表大会で報告をしていること等を勘案し、学術誌としての本誌に掲載するにふさわしいものと判断いたしました」と今回の掲載が特別なことであるとコメントを記載しており、『損害保険研究』にも編集委員会による、ほぼ同内容の記載があります。

### 論文のテーマと執筆者

#### ■生命保険論集

研究ノート

「株主優待制度の実実施動機～機関投資家から個人株主へ安定株主の変化～」

東京経済大学 柳瀬典由ゼミナール

市川悠人（経営4年）、金山由梨奈（経営4年）、計良彩香（経営4年）

#### ■損害保険研究

寄稿（RIS2014）優秀論文

「企業のリスクマネジメントと経営者の在任期間－「経営者リスク」とエンタレジメントコストの観点からの検証－」

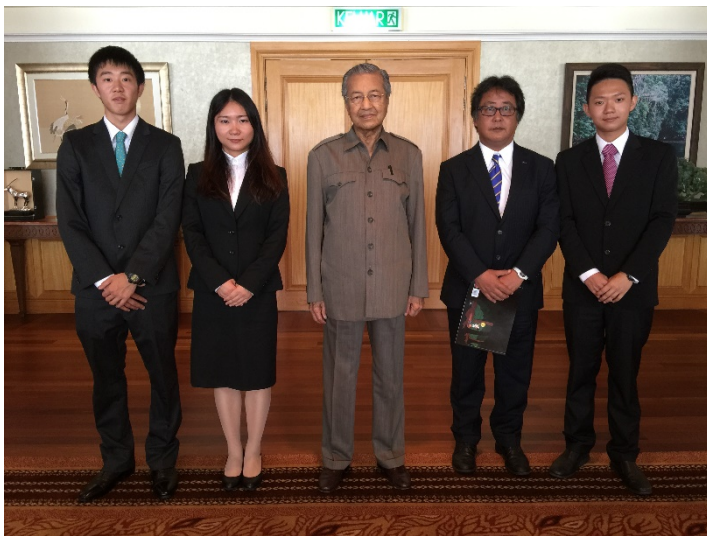
東京経済大学 柳瀬典由ゼミナール

岩崎明日実（経営4年）、荻野美樹（経営4年）、佐々木拓己（経営4年）



## 田島教授と学生がマレーシアのマハティール元首相と面談

経営学部の田島博和教授は8月20日～28日、マレーシア・シンガポールで調査旅行を実施し、柳川拓哉さん（経営学部2年）、チョーウィさん（経営学部3年）、本学を卒業した他大学院生1名とともに、マレーシアのマハティール・ビン・モハマド元首相と懇談しました。



調査旅行に同行した柳川さんは、「メディアを通じて東南アジアの著しい経済発展について興味がわき、自分の目で確かめたいと思った」と言います。マハティール元首相との懇談では、「私も英語で元首相に質問しました。まずは存在感に圧倒されましたが、冷静でわかりやすく話をしてくれました。英語力をアップさせるとともに中国語の習得の必要性、また、さまざま

な民族についても学んでおく必要性を痛感しました」と今回の経験について話してくれました。

この調査旅行ではマレー半島を縦断しながら4都市を巡り、ペナンにある福建会館と潮州会館、企業では文秀ホンダとポッカサッポロの2社、さらにシンガポールの南洋理工大学ビジネススクールとマレーシア日本国際工科院の2大学、シンガポール港視察を行いました。

引率した田島教授は「当初予定していた80%プラス想定外の40%で、合計120%の収穫がありました。同行した3人の学生は多くを知り、学び、刺激を受け夢が広がったと思います。これからも外国の文化に敬意を払い、自国の文化に誇りを持って頑張ってもらいたい」と学生たちにエールを送っています。

【東京経済大学 総合企画部 広報課】

〒185-8502 東京都国分寺市南町1-7-34

TEL : 042-328-7724 FAX : 042-328-7768 email : pr@s.tku.ac.jp